平成 23 年度　富士山麓医療関連機器製造業者等交流会活動記録

第　1　回

■講演　「福祉、介護施設の職員を交えた全体意見交換会～福祉、介護現場での現状、開発のヒント～」
ゲスト　特別養護老人ホーム富士楽寿園 柴田 誠 氏
老人保健施設ききょうの郷 大箸 実穂 氏
特別養護老人ホームヴィラージュ富士 松永 希 氏
アドバイザー　特別養護老人ホーム岩本園 施設長 渡邉 睦 氏
進行役　東海大学工学部医用生体工学科 教授 影山 芳之 氏

■日時　平成 23 年 7 月 12 日（火曜日）　午後 5 時 30 分から

■会場　富士市産業交流展示場ふじさんめっせ　（富士市柳島 189 番地の 8）

■要旨

福祉、介護施設の職員 3 人から福祉、介護現場における現状、現場で困っていること、欲しい機器、器具、今後の開発に向けて必要な業界情報や留意点等について発表していただき、その後、全体で意見交換を行った。

福祉、介護施設の職員 3 人から施設概要、介護ベッド、車椅子、関連機器等についての開発、改良提案について説明

影山教授の進行により会場（参加者）からの質疑応答、意見聴取による意見交換会

第　2　回

■分科会意見交換会

■日時　平成 23 年 9 月 27 日（火曜日）　午後 5 時 30 分から

■会場　富士市産業交流展示場ふじさんめっせ　（富士市柳島 189 番地の 8）

■要旨

三つの部会（医療、福祉・介護、生活）を同時開催し、各部会のテーマに沿った研究内容の検討や計画等、今後の方針の意見交換を実施した。

１　医療部会（医療関連をテーマとした研究開発を目指す部会）

《出席者（敬称略）》

・東海大学開発工学部医用生体工学科 教授 影山 芳之（座長（進行役））
・東海大学開発工学部医用生体工学科 准教授 大島 浩
・企業組合テクノシステムズ 専務理事 鈴木 邦男
・東洋レヂン株式会社 管理部商品開発主任研究員 深澤 聡
・株式会社ホリックス 代表取締役 堀内 喜久二
・東京コンピュータサービス株式会社沼津支店 係長 吉田 泰大
・タカラ産業株式会社 代表取締役社長 渡辺 哲史
・堀井 健二
・岳南有機株式会社技術課 係長 篠原 直哉
・岳南有機株式会社営業課 係長 菅谷 稔

・平電機株式会社 代表取締役 平 正和
・静岡県経済産業部商工業局新産業集積課 主任 村越 大
・静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター 上席研究員 中山 洋
・財団法人しずおか産業創造機構ファルマバレーセンター 企画部産業化コーディネータ 大竹 輝徳
・沼津工業高等専門学校 人材養成事業コーディネータ 望月 幹男
・静岡県中小企業団体中央会東部事務所 所長 古井 敏夫
・富士市商工農林部工業振興課 主査 佐野 友樹

２　福祉、介護部会（福祉、介護関連をテーマとした研究開発を目指す部会）
《出席者（敬称略）》
・技術士事務所トーテック 所長、企業組合テクノシステムズ 代表理事 松坂 孝（座長（進行役））
・企業組合テンテック 代表理事 渡辺 節雄
・有限会社京和工業 代表取締役 安部 一祐
・東京コンピュータサービス株式会社沼津支店 拠点責任者 渡辺 篤
・株式会社アイジョス 取締役 若林 正美
・THK 株式会社沼津支店 支店長 小林 義典
・THK 株式会社沼津支店 早川 光
・テックパワー 代表 黒田 力
・静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター 研究員 鈴木 悠介
・静岡県中小企業団体中央会東部事務所　副所長　大村 吉夫
・富士市商工農林部業振興課 統括主幹 米山 充

３　生活部会（健康、食品等生活全般の研究開発を目指す部会）
《出席者（敬称略）》
・株式会社ユーディーエム 代表取締役 漆畑 義彦（座長（進行役））
・富士テクノサポート 代表 中田 幸次郎
・株式会社オギ 取締役 荻 真二
・富士工業技術支援センター センター長 倉田 俊彦
・静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター 上席研究員 杉本 芳邦
・財団法人しずおか産業創造機構ファルマバレーセンター企画部 主幹 吉田 一也
・静岡県中小企業団体中央会東部事務所　主任　飯塚　隆
・富士市商工農林部工業振興課　主事補　増田　卓志

視察研修

■視察先　第 38 回国際福祉機器展 H.C.R2011
■日時　平成 23 年 10 月 7 日（金曜日）
■会場　東京ビッグサイト東展示棟（東京都江東区）
■要旨
国際福祉機器展は、ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した福祉車両まで、世界の福祉

機器を一堂に集めた国際展示会である。

保健医療、福祉、介護の各分野の制度改革や事業活動を紹介する国際シンポジウム、セミナー等を開催するなど、世界の福祉機器を総合展示している。国内453社、海外12か国、1地域57社が、20,000点に上る福祉機器を展示した。3日間で約118,000人が来場した。

今回は、東日本大震災で福祉施設や在宅の高齢者、障害者も多く被災したことを受け、福祉施設向けの防災用品や被災地で役立つ福祉機器を紹介する特設会場を設けたほか、福祉施設の災害対策をテーマにしたシンポジウムも開かれた。

福祉、介護支援情報システム分野の展示では、各社がシステムの新バージョンの紹介やモバイル端末を使ったケア記録ソリューションが実演された。また、今年の福祉、介護支援情報システム関連の出展では、ケア記録ソリューションが多彩になると同時に、アイフォンやタブレット端末の活用が非常に多く見られたのが特徴で、来場者の多くが関心を寄せていた。

第 3 回

■講演１　「健康増進・介護予防とユニバーサルデザイン」
　　　　　講師　静岡福祉大学社会福祉学部健康福祉学科 教授 田崎 裕美 氏
■講演２　「介護福祉の現場の動向と医療機器～養成校介護教員の立場から～」
　　　　　講師　静岡福祉大学社会福祉学部健康福祉学科 教員 中野 一茂 氏
■分科会報告
■日時　平成23年11月21日（月曜日）　午後5時30分から
■会場　富士市産業交流展示場ふじさんめっせ（富士市柳島189番地の8）
■要旨

１　「健康増進、介護予防とユニバーサルデザイン」の要旨

健康と介護予防という幅広い視点から、食生活の現状や食育、住環境から調理活動のユニバーサルデザイン、健康増進や生活習慣予防のための機器等、具体的事例を交えて講演いただいた。

⑴　少子高齢社会における健康概念の変化

・少子高齢社会において健康は、老親の扶養や介護問題（老老介護）、一人暮らし世帯の増加につながる。
・健康概念の変化し、現在は「数病息災」、「心の健康」に変わってきている。
・ヘルスプロモーションは、地域の住民や行政などさまざまな人々が協力しながら健康な環境をつくることを目的としている。具体的には、病気の原因となるリスクファクター（危険因子）を探し、治療や予防、そしてリハビリテーションをすることを超えて、健康をつくるハピネスファクター（幸福因子）を探して健康管理しなければならない。

⑵　健康日本21(2001～2010年）の総括

・栄養成分表示は、食事内容や量の調整に活用できることから、表示の義務化といった環境整備を促す制度の見直しも必要であると考えられる。
・環境整備は、企業努力以外にも国の施策として展開、国の財政にも関わる問題
・「健康日本 21」の重点プロジェクトとして、適度な運動、適切な食生活、禁煙に焦点をあてた。食では、「朝食の欠食率の減少」、「野菜の摂取量の増加」等が目標
・窒息事故や誤嚥性肺炎予防のための口腔機能向上に効果的なセルフケアの知識、技術や、「食べトレ体操」、「唾液腺マッサージ」等について解説しており、今後、注目される課題

⑶　健康増進、介護予防と食のユニバーサルデザイン

・食をユニバーサルデザインしたら　「ユニバーサルデザイン」＋「料理（3 要素　食材の工夫、器具や環境の工夫、調理法の工夫）」＝誰もが（子ども、高齢者、障がいのある方）楽しく作れ、おいしく食べられる料理

２　「介護福祉の現場の動向と医療機器～養成校介護教員の立場から～」の要旨

養成校の介護教員の立場から、介護福祉の現場の動向と医療機器について講演いただいた。

・平成 23 年度の介護福祉士法の改正により、平成 24 年 4 月から医師の指示の下で、介護福祉士に医療的行為(一部)が許される。(たんの吸引、経管栄養)
・介護福祉士は、わずか 50 時間の講習で医療行為を行うことになる。機器で安全を確保することはできないか。安全に、確実に、簡便に。
・問題を解決するには、人的な未熟な部分をフェイルセイフ（fail safe）の観点からの機器の開発を行なう。
・経管栄養、吸引行為でも、介護福祉士が医療行為を行う際に、求められるのは機器に対する従来以上の安全性
・最先端の福祉機器をみても、施設ではとても運用できるとは思えない。高齢者、障がい者の身体状況を考慮しているのか。実際に使用する介護現場での意見は聞いたのか。
・研究開発だけ担当して、販売やアフターは企業任せという従来の産学連携のスタイルでは、現場で使える機器はでてこない。
・エンドユーザーの継続的な生の声が研究開発に欠かせない。

３　分科会報告

・医療部会（医療関連をテーマとした研究開発を目指す部会）
・福祉、介護部会（福祉、介護関連をテーマとした研究開発を目指す部会）
・生活部会（健康、食品等生活全般の研究開発を目指す部会）

第 4 回

■講演　「医療機器の市場動向と開発のポイント」

講師　ケイ・アンド・ケイジャパン株式会社 代表取締役 久保田 博南 氏

■相談機関の紹介

■日時　平成 24 年 3 月 8 日（木曜日）　午後 5 時 30 分から

■会場　富士市産業交流展示場ふじさんめっせ　（富士市柳島 189 番地の 8）

■要旨

１　「医療機器の市場動向と開発のポイント」の要旨

国内外の動きを含めた医療機器の市場動向や業界の特殊性、業界参入のポイント、医療機器開発に向けた戦略と準備、開発の着眼点や医工連携などについて、講演いただいた。

⑴　医療、健康、福祉機器の市場

・関連機器群の位置づけとして、我が国の医療機器、福祉機器、健康機器などの関連機器群は、「薬事法」の管制化にある。機種によっては、薬事法で定められた「医療機器」としての仕様を満たす必要がある。そのために医療機器産業はレギュラトリー産業とも呼ばれ、参入に対しては、薬事法で定められた業態の許可を取得する必要がある。
・他の産業との違いについて認識を持つ必要がある。

・医療機器の総合市場は20兆円程度と考えられる。最大の市場はアメリカであり、今後さらに世界のリーダーであり続ける公算は大きい。

⑵　医療機器開発の着眼点

ア　何を欲しがっているのか

イ　何に困っているか

ウ　有効に使える道はないか

⑶　まとめ

現時点で、ＩＴと医療機器との関わりは、避けて通れない課題でもある。これからも、積極的なＩＴ技術との融合が図られる機運にあり、それによる医療機器そのものの進展も期待される。

最新の医療機器の展開には、一面から眺めれば、目を見張るものが多い。しかしながら、一方では、基礎技術や基幹機能として求められている事項もたくさんある。現在は、ハードよりソフトの時代ともいわれる。ハードウエアとしての医療機器そのものの進歩に合わせて、ソフトウエア技術の後れを取り戻すことも大切である。

２　相談機関の紹介

・静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター

・沼津工業高等専門学校

・富士産業支援センター f-Biz（エフビズ）

・静岡県中小企業団体中央会

１　団体の名称や人物の肩書、各種制度の内容は講演、視察等の時点のままですので、御留意ください。

２　静岡県中小企業団体中央会が作成した原稿を基にしています。

主　催　富士市 産業経済部 産業政策課
〒417-8601　静岡県富士市永田町一丁目100番地
電話番号：0545-55-2779　E-mail:sa-sangyou@div.city.fuji.shizuoka.jp
事務局　静岡県中小企業団体中央会 東部事務所
〒410-0881　静岡県沼津市八幡町７番１号
電話番号：055-963-4511　E-mail：fuji-ikoukai@siz-sba.or.jp